

平成26年度 町政執行方針

3月11日から開催された町議会第1回定例会において、岩村町長が、平成26年度の町政執行方針と予算編成概要を述べましたので、お知らせします。



平成26年第1回町議会定例会の開会にあたり、私のまちづくりに臨む方針について申し上げます。

私は、昨年10月の八雲町長選挙において、多くの町民の皆様方から温かいご支援、ご厚情をいただき、八雲町の責任あるかじ取りを任せられました。

皆様方から寄せられました期待と信頼を裏切ることなく、私の基本姿勢としている『この大地にしっかりと軸足を置き、対話を通じ「八雲町」のまちづくりを進め、将来にわたって地域住民が夢と希望をもって安心して暮らせるまち』を目指し、全力をもって邁進する覚悟でございます。

私は、町長選挙に立候補するにあたり、幾つかの考えを町民に訴えてきました。

それは、企業誘致などを積極的に進め、若い世代の雇用の場を確保して経済振興を進めるこ

とです。また、民間経営者の経験を生かし、町政の無駄があるか検証しつつ、一次産業の活性化などを通して財政基盤の強化に努め、柔軟にして大胆な展開により、30年後を見据えたまちづくりを進めることです。

町おこしを積極的に進めるため、自らトップセールスマンとして全道、全国へ八雲町の情報を発信していきます。

高速道路八雲パーキングエリアから出入りできるスマートインターチェンジを設け、民間と協力して町内に人が流れるようにできないか、じっくり検討していきます。

また、ケアハウスの運営を手がけた経験から、福祉で雇用の場が広がると実感しましたので「看護師、介護士の専門学校」が設立できないものかと検討してみたいと考えています。これらは、焦らずにじっくりと進めていくべきことと思っています。

さて政府は、2014年度予算案の編成にあたり「経済再生・デフレ脱却と財政健全化を合わせて目指す」としています。一方で消費税が8%に引き上げられるとともに、年金や介護保険の負担増・給付減などが追い打ちをかけ、国民生活が圧

迫されることが予測されます。

また、今年の景気回復は、アベノミクスの「第1の矢」金融緩和「第2の矢」財政出動、さらには「第3の矢」成長戦略により、経済の好循環を実現させ、景気回復の実感を全国に届けるとしているものの、地方ではまだまだ実感に乏しい状況にあります。加えて、本年末には、2015年10月に消費税率を10%に引き上げるかどうかの判断を迫られるなど、今後の自治体運営にもどのような影響を及ぼすのか注視しながら、適正な事務の執行に努めてまいります。

新八雲町総合計画も、平成24年度に町を取り巻く情勢、町民ニーズ等を踏まえた基本計画の内容の見直しを行い、平成25年度から平成29年度までの後期基本計画がスタートしたところでもあります。

八雲町自治基本条例の崇高な理念に則り、厳しい財政状況下にあっても、力強くまちづくりに取り組み「ステップ・アップ・プラン新八雲町総合計画」の実現に向け取り組んでまいります。

2015年度には、北海道新幹線新函館駅（仮称）が開業を迎えます。新幹線開業による時間短縮や大量輸送は、観光客の増加や交流人口の拡大に大いに期待されるところで。

本年1月12日にオープンした

八雲町情報交流物産館「丘の駅」を核として、地域の魅力ある物産・情報を積極的に発信し、近隣町村と連携しながら、新函館駅（仮称）から町までの動線をしっかりと確保するための方策を町を挙げて取り組んでまいります。

観光の振興および農林水産資源の流通対策やブランド化を進めるため、関係機関や大学と連携し、活力ある地域経済の振興に取り組みでまいります。

医療の充実には、地域で安心して生活するための重要な条件であります。

八雲総合病院は、大規模災害時に重要な役割を果たす「災害拠点病院」に指定されておりますが、本館棟が耐震基準を満たしていないため、国の医療施設耐震化臨時特例交付金の交付を受け、いよいよ本館棟などの工事に着手いたします。

完成後は、耐震化された災害拠点病院として、町民の安心・安全を確保するとともに、地域住民のニーズに対応した医療の提供に努めてまいります。

熊石国保病院は、昨年4月から院長・副院長の二人体制での診療が確立され、地域に密着した医療機関として安定経営がなされており、今後も地域医療の充実に向けてまいります。

今年度より、町を支援していただく「ふるさと納税」に力を